
夜桜

まめご

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜桜

【Nコード】

N2357S

【作者名】

まめご

【あらすじ】

宮廷の踊り子シュロは、偶然、上司である舞踏長マイムの踊りを目にする。

ティエンランシリーズ番外編。時間軸は新王が立ってからしばらくしての頃。 T I I N A M Iより転載作品。

その日、シュロはうんざりしながら歩いていた。
稽古場に練習用の扇を忘れたのである。

疲れ果てた体は夕餉と休憩を求めていたし、上司と顔を合わせるのが嫌だった。

踊り子として宮廷に上がってから、二年が経とうとしている。

それなりにプライドはあったし、この華やかな職業は格好の伴侶探しに最適だ。

金持ちで様子のいい男がいれば、さっさと引退するつもりだったが、新しく舞踏長に就いたマイムは、容赦なく、かつ鬼の如く踊り子たちを教育した。

「なんでそんなこともできないの、あんたたちは！」
怒鳴られなかった日などない。

日が暮れる前に解放された日などない。

マイムが宮廷一の踊り子「舞姫」だった時代をシュロたちは知らない。どうせその美貌で男や世間を誑しこんだに違いない。

「本当はドヘタクソなんじゃないの」

「ヒステリーって嫌よね」

そう仲間たちと陰口を叩くことで溜飲を下げた。

目指す稽古場には灯りがともっていて、シュロは舌打ちをする。

こっそり様子をうかがうと、秘かな話し声が聞こえた。

鬼のマイムと楽師長ミヨシノのものだ。

うわ、白將軍誑たぶらかした次はミヨシノさまかよ。

だけど、いいネタが出来た。帰ったらさっそくみんなに言いふらしてやろう。

ふんだんに話を膨らませて。

にやりと笑ったシュロは、そっと窓から顔を覗かせた。

「いつそすつきりした方が良くはないか」

笑いを含みながら細面の優男が琵琶を掻きならした。

静じょうと鳴る。

「そのためにはわたしは何だって協力するよ。麗しの舞踏長殿のた
めならね」

「相変わらず口だけはうまいのね」

「口だけではないと自負しているつもりだが」

琵琶は濁だくと響いた。

「観客がいらないのが不満だけど」

ゆつくりとマイムは、稽古場の中央に歩を進める。

「お言葉に甘えて一舞しましょうか」

しゃらりと構えた。

その右手を天に掲げ、左手は優美に回転し胸の前へ。

シユロは思わず息を呑む。

ただそれだけの動作に凜々しさと儚さが宿っていた。

「演目は」

「夜桜を」

夜桜。

その舞をシユロは知っている。

春は朧おほろ、桜の下で女は男を待っている。

静

花びらが闇に舞う。

静 静 静 静

次から次へと絶え間なく。

静 静 静 静 濁 静 静 静 静 静 静 静

男はこない。

女の慕情は次第に狂気へと変わる。

静 静 静 濁 静 静 静 静 静 静

強風が花びらを舞い上げる。

静静静静静静静静静静静静静静静静

女の狂気は風を操り、女の絶望は闇を裂く。
乱舞する花びら、月も飛ばされる花嵐の夜。

濁濁静静静静静静静静静静静静静静静

静濁静濁静濁静濁静濁静濁静濁静濁
静静静静静静静静静静静静静静静

まるでそこだけが異空間だった。小宇宙だった。

激しく鳴る琵琶の音と共に形成される。

これほど圧倒的な舞を見たことがない。

こんな魂が震えるような。

シュロは自分の体を守るように両腕を回していることなど気が付かず、ただ食い入るように凝視していた。

濁濁濁濁静濁静濁濁濁濁濁静静濁濁
濁静濁静静濁静静静濁静静静静静静
濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁

女はついに事切れる。

静！

「見事」

ミヨシノの声に、マイムが型を崩した。異空間は、小宇宙は消え、稽古場は現実に戻った。

シュロは動くことが出来ない。

「あら」

マイムは部下に気付いたが、チラリと笑っただけだった。

「観客がいたわ」

そのまま出ていってしまった。ミヨシノも後に続く。

それでもシュロは、無人となった稽古場を凝視しているだけだった。今しがた目にしたのは舞いか狂気か、それとも　それとも夜桜。

シュロが「舞姫」の称号を押しいただいたのは、それから三年後のことである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2357s/>

夜桜

2011年5月10日13時01分発行